



農業のうごき

〈編集・発行〉

相模原市農業委員会
相模原市中央区中央2丁目11番15号
Tel 042-769-8292 (直通)

農地再生モデル事業を実施しました

農業委員会では、農業者の高齢化や農業の担い手不足等により荒れてしまっている農地を農業委員、農地利用最適化推進委員が除草や耕作することにより、農地を再生する「農地再生モデル事業」を平成23年から行っています。

今年度の活動については、所有者の高齢化により耕作できなくなった緑区鳥屋の農地で津久井在来大豆を栽培しました。

津久井在来大豆の収穫まで

6月下旬



・種まきに向けた農地の整備
・津久井在来大豆の種まき
・鳥獣対策のための電気柵設置

7~9月



・除草、害虫駆除

11月下旬



・大豆の収穫
シカによる被害もありましたが、無事に大豆を収穫できました

こうした取組を通じて、持続した農地の保全とともに、新たな担い手への引継ぎ、相模原市の農業の発展につなげていきます。



阿部会長(右から4人目)から奈良副市長へ意見書を提出。

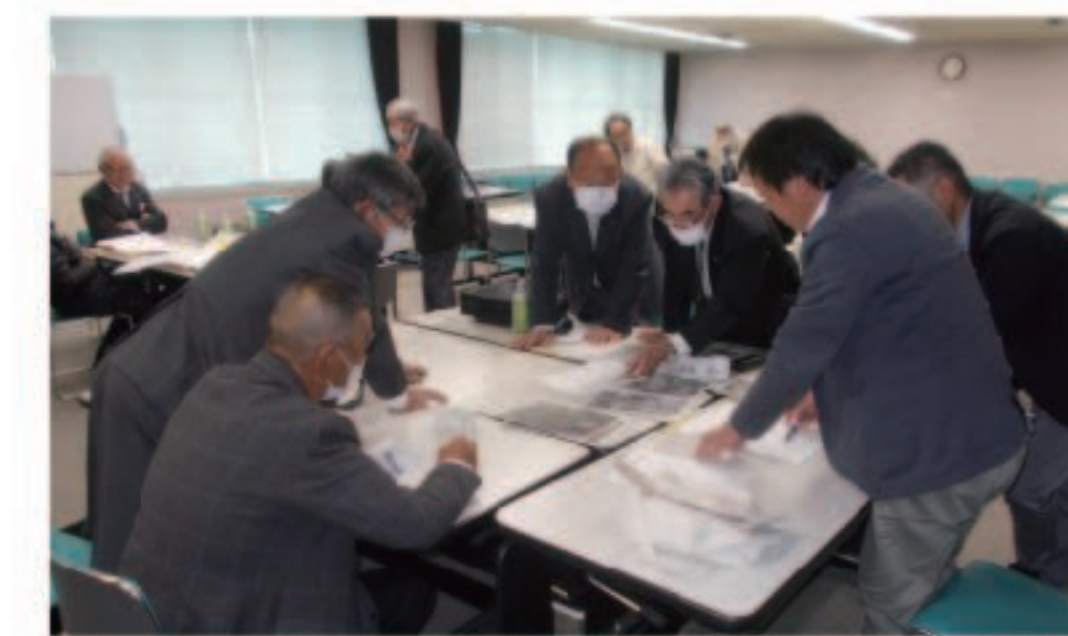
令和6年度農地等の利用の最適化の推進に関する意見を提出

11月30日に「令和6年度相模原市農地等の利用の最適化の推進に関する意見」を、農業委員会の阿部会長から奈良副市長へ手渡しました。

この意見は、農業者の皆様から農業委員や農地利用最適化推進委員へ寄せられた意見をまとめたもので、農地等の利用の最適化の推進をより効率的・効果的に図っていくため、「都市農業の推進について」「遊休農地の発生防止・解消について」「担い手への農地利用の集積・集約化について」「新規参入の促進について」の4項目について取りまとめました。

遊休農地の発生防止・解消に向けた取組へのご協力について

農業委員会では、法令に基づき、毎年市内の全農地の利用状況を把握するため、農地の利用状況調査を実施しており、「遊休農地」と判定された農地について、所有者に働きかけ、遊休農地の発生防止・解消をするための取組を行っています。該当する方には、農業委員、農地利用最適化推進委員からご連絡させていただくことがありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。



候補地の選定の話し合いの様子

令和5年度神奈川県農業委員会活動推進大会が開催されました



がんばろう三唱を行う阿部会長

11月10日に、海老名市文化会館で、県内の農業委員・農地利用最適化推進委員が出席して、4年ぶりに神奈川県農業委員会活動推進大会として開催されました。

- 第1号議案 地域計画策定の着実な推進に関する要望
- 第2号議案 農地の適正利用の確立に関する要望
- 第3号議案 農業委員会の活動推進強化に関する申し合わせ



11月12日、淵野辺公園中央広場で「第59回相模原市農業まつり」が開催され、たくさんの方々が地場農産物やその加工品の販売、イベントなどを楽しみました。農業委員会ではブースを設置し、活動紹介や地産地消の呼び掛けを行いました。詳細は下段記事で紹介します。また、ステージでは市内農畜産物を品評する「農畜産物共進会」の表彰式も開催されました。



【農畜産物共進会 優秀賞受賞者一覧】

区分	部門	受賞者名(敬称略)	区分	部門	受賞者名(敬称略)
立毛	施設トマトの部	小侯 武士	生産物	施設トマトの部	小侯 章洋
	梨の部	柿澤 貞夫		施設キュウリの部	内田 善知鳥
	ぶどうの部	中里 正人		梨の部	柿澤 貞夫
	露地ナスの部	佐藤 晴信		ぶどうの部	小野澤 広大
	ブルーベリーの部	菊地原 恒市		柿の部	柿澤 光一
	露地トマトの部	小星 伸介		シクラメンの部	八木 雄一郎
	露地キュウリの部	中里 シツエ		パンジーの部	八木 雄一郎
	柿の部	柿澤 貞夫		ブルーベリーの部	内田 幸一
坪掘り	やまといもの部	佐藤 隆一	畜産物	キウイフルーツの部	臼井 道子
	甘藷の部	中里 勲		優等 乳牛の部(育成牛)	神奈川県立相原高等学校
畜産物	優等 鶏卵の部	有限会社 小川フェニックス 代表取締役 小川 大造		優等 乳牛の部(経産牛)	吉川 一郎

※生産物津久井在来大豆の部については、受賞者が決まりましたら改めてお知らせします。

市内のイベントで農業委員会の活動をPRしました!

11月12日に開催された「第59回相模原市農業まつり」と、11月18日に開催された「第35回JAまつり」にて、農業委員会の活動や相模原市の農業を知っていただくことを目的に、農業委員会のブースを設置し、パネルの展示と相模原市の農業にまつわるクイズを実施しました。



JAまつりのブースの様子



農業まつりでクイズを行っている様子

両日合わせて約340名の方に農業委員会のブースを訪れていただき、クイズに回答した方には、農業委員会オリジナルのエコバッグをプレゼントしました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

これからも相模原市の農業と農業委員会の活動にご協力をお願いいたします。

令和6年度農地等の利用の最適化の推進に関する意見の概要

※意見の全文については市ホームページをご覧ください。

1 都市農業の推進について

- 地産地消の推進による販路拡大について

地場農産物等のブランド化や販路拡大の強化、子ども達が食への理解・関心を深め、農業の大切さを学べる取組の継続・拡充、小規模農家の販路確保への支援策などを進めること。
- 農業生産コストの増加等への対応について

引き続き、国や県の交付金や補助事業を積極的に活用し、農業生産コストの増加に対応する給付金の支給をはじめ、迅速な対応に取り組むこと。
- 農業の脱炭素化に向けた環境配慮型農業の推進について

有機農業の取組面積の拡大について、県及び農協等の関係機関との連携や周知啓発に努めるとともに、今年度市が策定した「有機農業実施計画」について、計画や実施する事業の概要を広く農業者へ周知すること。
- 総合的な相談体制の充実について

新規就農や農地のあっせんなど農業者の様々な相談や手続きについて、農業委員会・農協等の関係機関と綿密な連携を図るとともに、相談会の開催やホームページの充実など、相談しやすい体制づくりや分かりやすい情報発信に取り組むこと。

2 遊休農地の発生防止・解消について

遊休農地については、農業者の高齢化や担い手不足等のほか、鳥獣被害による営農意欲の減退など様々な要因により発生している。その解消を図るため、次の施策を行うこと。

- 遊休農地の発生防止・解消に向けた取組を支援し、農業後継者のサポート体制の構築や、相続等により農業を継続できない場合に農地のあっせんなどを行う相談体制づくりについて検討すること。
- 鳥獣被害は営農意欲の減退に繋がるため、津久井地域だけでなく旧市域も含めて対策を充実させること。電気柵設置補助金の予算拡充、箱ワナ等で捕獲した小型鳥獣の処分に係る支援に取り組むこと。また、全国での先進的な取組事例を調査し、各地域の状況に応じた実効性の高い鳥獣被害対策を講じること。

3 担い手への農地利用の集積・集約化について

農地の有効利用を図り、担い手の確保と農業経営の規模拡大及び農地の集団化を進めるため、次の施策を行うこと。

- 「相模原農業振興地域整備計画」の農用地利用計画に掲げられた農道の補修・整備、用水路の整備について取組を進め、特に大島諏訪森下地域の水田地帯、大沢地区、上溝地区、小倉地区、金原地区については重点的に進めること。
- 藤野地区の大日野原圃場への進入路について、安全対策を継続して実施すること。また、進入路整備に係る情報を、適時、地域や関係機関に提供すること。
- 地域農業の将来像を描く「地域計画」については、国等の情報収集を行うとともに、策定までの作業内容やスケジュールを確認した上で、関係機関との協議により役割分担を明確にし、連携しながら策定を進めていくこと。

4 新規参入の促進について

農業者の高齢化や担い手・後継者不足による農業者の減少に歯止めをかけるため、将来にわたって農業を支えていく新規参入者に対する総合的な支援として、次の施策を行うこと。

- 農協やかながわ農業アカデミー等と連携し、また、かながわ農業アカデミーと、市内農業者の研修生の受入れ実績などの情報共有を図ること。
- 新規参入希望者に対して、就農前の研修に係る補助・支援制度等の情報を周知すること。
- 参入して間もない農業者への農業経営・技術の向上、作業場の確保などに対する支援を充実するとともに、新規就農後の補助・支援制度の周知を図ること。